

Title	シノミンによる尿路感染症の治験
Author(s)	稲田, 務; 片村, 永樹
Citation	泌尿器科紀要 (1960), 6(2): 148-150
Issue Date	1960-02
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/111900">http://hdl.handle.net/2433/111900</a>
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

## シノミンによる尿路感染症の治験

京都大学医学部泌尿器科学教室

教授 稲 田 務

助手 片 村 永 樹

## Treatment for Infection in the Urinary Tracts with Sinomin

Tsutomu INADA and Eizyu KATAMURA

*From the Department of Urology, Faculty of Medicine, Kyoto University**(Director . Prof. T. Inada)*

In this paper, the authors were reported on the clinical effect of Sinomin, 5-methyl-3-sulfanilamido-isoxazole, for infected diseases of urinary tracts.

A good effect was obtained all patients with cystitis and pyelitis or pyelonephritis containing 3 cases of urolithiasis, and all cases were not demonstrated on the any side effects.

泌尿器科領域では、細菌感染が原因となる疾患がおおく、またほかの疾患の治療と経過のなかで、細菌感染がおおきな影響をおよぼし、いわゆる化学療法、抗生物質療法に期待がおおきい。

1935年に、Gerhard Domagk が、プロントジルに、すぐれた抗どう球菌性のあることを発見し、ついで、Tréfouels が、プロントジルの有効なのは、生体内で還元されてできるパラミノ・ベンゼン スルフォンアミドであることをみつけてよいサルファ剤時代の出現となつた。

これは、さらに戦後われわれのものとなつた、抗生物質のはなばなしい登場とともに、尿路感染症の治療をたやすいものとし、いろんな尿路の大手術を可能にし、発展させ、先人の夢にもおもわなかつた泌尿器科学発展の一翼になうこととなつたのである。

しかし、サルファ剤というものは、妙なもので、あるひとつの薬物が合成され、出現してしばらくは薬効をしめすが、数年たつてくると、なんとなく、きかなくなるような不満を、わたくしたち臨床家は感じている。このとき、塩野

義製薬で、MS-53 として、あたらしいサルファ剤が合成され、ついでシノミンとして発売されるようになったので、このことを歓迎しつつさっそく使用してみたので、その使用経験を簡単にのべてみたい。

## 症 例

シノミンをもちいていた患者は細菌性尿路疾患で、臨床所見、治療方法と量、その効果などを表にしてしめす。

〔第1例〕 久保 42才 ♂

診断：腎盂炎・尿管炎

経過：5年前、膀胱全摘出術後、両側尿管皮膚瘻をつくつた。この尿管へ、No. 7 のネラトン氏カテーテルをいれて、排尿をはかっているが、尿管が、外界にひらいていることから、腎盂・尿管炎を再々おこし、そのために、ネラトンの、尿管内挿入が困難であつたが、シノミン1gずつを、1日2回に分服させ、7日間継続したところ、膿尿は清澄となり、尿管口よりの排膿もなくなり、起炎菌は、いちじるしく減少し、カテーテルの交換は、容易となつた。

〔第2例〕 山内 52才 ♂

診断：腎盂腎炎・尿管炎

経過：膀胱全摘出後の尿管皮膚瘻患者でブドー球菌、大腸菌を、純培養のよのみにみとめる膿尿をだして

患 者	年 令	性	診 断	症 状	起 炎 菌	治 療 法	効 果
1 久 保	42	♂	腎盂炎・尿管炎 (両側尿管皮膚瘻・膀胱全摘)	尿濁濁・尿管皮膚瘻より排膿・尿管へのカテーテル挿入が困難で疼痛がある。	ブドウ球菌 連鎖球菌 大腸菌	シノミン1gずつ 1日2回・ 7日間(14g)	有効
2 山 内	52	♂	腎盂腎炎・尿管炎 (両側尿管皮膚瘻・膀胱全摘)	左腎尿は、膿尿・高熱、疼痛あり。腎盂洗滌を頻回におこない、マイシリで注射して効果なし。	ブドウ球菌 大腸菌	シノミン初回 2g、のち1gずつ 1日に2回 10日間(21g)	有効
3 佐 藤	30	♀	両側腎盂炎 浮泡性膀胱炎	尿濁濁・頻尿、排尿痛・右腎部不快感が3年前からつづいている。	大腸菌 ブドウ球菌	シノミン1gずつ 1日2回、 7日間(14g)	著効
4 水 井	48	♂	急性膀胱炎	血尿、頻尿・排尿痛	大腸菌	シノミン1gずつ 1日2回 7日間(14g)	著効
5 坂 部	48	♀	慢性膀胱炎	4～5年前より難治性の出血性浮泡性膀胱炎で、再々くりかえす、出血・頻尿・排尿痛・下腹部鈍痛。	大腸菌 ブドウ球菌	シノミン1gずつ 1日2回 7日間(14g)	著効
6 門	21	♀	急性膀胱炎	尿濁濁、頻尿・排尿痛がつよい。膀胱全面の発赤腫脹いちじるしい。	大腸菌	シノミン初回2g のち1gずつ1日 2回5日(11g)	著効
7 松 田	26	♀	急性膀胱炎	血尿・尿意頻数・排尿痛。	大腸菌 トリコモナス 原虫	シノミン1gずつ 1日2回 5日(10g)	有効
8 福 田	26	♂	左尿管石症 膀胱炎	左尿管口附近の発赤と腫脹がいちじるしく、膀胱底部に浮泡形成をみとむ。 (左尿管切石術後瘻孔形成)	大腸菌 連鎖球菌	シノミン1日2g 2回分服 4日(8g)	やや有効
9 西 川	10	♀	急性出血性 膀胱炎	出血と排尿痛	大腸菌	シノミン1日2g 2回分服 4日(8g)	著効
10 三 浦	38	♀	慢性膀胱炎 尿道口炎	頻尿・排尿痛・下腹部不快感。	大腸菌	シノミン1日2g 2回分服 10日(20g)	有効
11 青 木	58	♀	両腎結石症 感染性水腎症	尿濁濁。手術前に投与し、術後経過を好転させた。	大腸菌 球菌	シノミン1日3g 3回分服4日(12g) これを2回計 24gもちいた。	著効
12 入 矢	18	♂	右尿管石症 右感染性水腎症	術前、術後に投与。一次的に治癒した。	大腸菌	シノミン1日2g 2回分服 7日(14g)	著効

おり、頻回の腎盂洗滌、Mycillin 投与をおこなっていたが、まったく軽快しない例に、1日2gのシノミン投与で、膿尿はみとめず、顕鏡的に、なお、起炎菌をみとめるものの、症状の軽快はいちじるしい。

〔第3例〕佐藤 30才 ♀

診断：両側腎盂炎・浮泡性膀胱炎

経過：3年前より、尿濁濁、尿意頻数、排尿痛あり、膀胱鏡的に膀胱底部に浮泡性炎症つよく、レ線的に、両側腎盂像は鈍円化をみとめたが、シノミン1gずつを、1日2回、7日間投与し、かつ、多量の水をとらせることにより、いちじるしい効果をおさめえた。

〔第4例〕水井 48才 ♂

診断：急性膀胱炎

経過：約5日前より、突然、血尿と頻尿、排尿痛をきたし、膀胱鏡的には、一面に発赤をみ、尿中に多数の大腸菌をみとめた。

これにシノミンを1gずつ、1日2回投与、安静をとらせていたところ、2日後には、まったく自覚症状はなくなり、5日後には尿所見も正常化し、7日間14gの投与で著効をしめし、再発もみとめない。

〔第5例〕坂部 48才 ♀

診断：慢性膀胱炎

経過：4～5年前より、頻尿、残尿感、排尿痛をと

もなつた難治性の出血性滲泡性膀胱炎で、膀胱底部、三角部に出血斑と、滲泡形成をみとめ尿中に、多量の大腸菌およびブドウ球菌をみとめた。これにシノミン1.0gずつを1日2回、7日間投与したところ、4日目にすでに、尿は清澄となり、起炎微生物をみとめず、ただ、赤白血球をわずかにみとめる程度で著効をさせた。

なお、この症例は3月のちに再発をみたが、これもシノミン1日2g投与7日間で全治した。

〔症例6〕 門 21才 ♀

診断：急性膀胱炎

経過：膀胱粘膜全面の発赤腫脹をみとめ、尿中赤白血球と、多数の大腸菌をみとめた例で、初回に2g、のち1日量2.5gを、1日2回分服で、容易に軽快した。

〔症例7〕 松田 26才 ♀

診断：急性膀胱炎

経過：本症例は、尿中に大腸菌のほか、膿より混入したとおもわれるトリコモナス原虫をみとめたが、とりあえず、シノミン1gずつ1日2回投与、5日で、自覚症状は消失し、尿の大腸菌もきわめてわずかなつた。また、トリコモナス原虫も、最終的な尿検査のさいにはみとめられなかつた。

〔第8例〕 福田 26才 ♂

診断：左尿管石症・膀胱炎

経過：10日前より、左下腹部に痙攣発作あり、血尿をみたため来院、指頭大左尿管石症（下腹）であることが判明した。膀胱は三角部左半部より底部にかけて、いちじるしい腫脹と滲泡形成があり、尿に大腸菌、連鎖球菌をみとめた。これに、シノミン1日2g、4日間8gをあたえ、左尿管切石術をおこなつたが、尿の変化はよかつたが、術後の瘻孔形成はふせげなかつた。

〔第9例〕 西川 10才 ♀

診断：急性出血性膀胱炎

経過：発病後、内科医をおとずれて、ストマイの注射をうけていたが効果なく、7日目に来院、高度の血尿と、中用量の大腸菌をみとめたので、シノミン2gを1日2包に分服させ、多量の水分摂取と、安静をとらせるところ、3日目に尿は清澄となり、大腸菌はみとめず、4日間、8g投与で全治した。小児に1日2

gを投与したが、とくに副作用はなかつたが、10才で、1.5gで充分とおもわれる。

〔症例10〕 三浦 38才 ♀

診断：慢性膀胱炎・内尿道口炎

経過：数年前からのつよい変化で、ことに内尿道口は、発赤腫脹がつよく、不規則となつている。大腸菌多数を尿にみとめ、シノミン1日2.0gを10日間もちいたが、起炎菌は消失し、自覚症状も軽快したものの、内尿道口のなかは変化は10日ではよくななかつた。

〔症例11〕 青木 58才 ♀

診断：両腎石症左樹枝状石・両感染性水腎症

〔症例12〕 入矢 18才 ♂

診断：右尿管石症・右感染性水腎症

これらの症例には、術前シノミンを投与し、4日後、それぞれ尿石除去術をこころみ、術後、瘻孔をつくることなく、一次的に創治癒をきたさせえた。

## ま と め

新サルファ剤のシノミンを感染性尿路疾患および感染性尿路疾患のある患者の手術前に投与して、いずれも著効ないしは、有効な結果をみた。

使用した量は、一般的に1日2gとし、これを12時間おき、1日2回分服とし、2～3の例においてのみ、初回量を2gとしたがこれはとくに、必要はない。

また、重症例では、1日量を3gにしたが副作用はないし、効果はよかつた。

10才の小児例に、成人量とおなじ2gをあたえたが、もちろん著効をさせたが、これは、1～1.5gm でよい

副作用は、全例においてまったくみとめなかつた。一般に水分を多量にとるように指導したが、これは、サルファ剤の腎にあたえる副作用を顧慮してではなく、尿路の刺激症状の軽減をはかつてのことである。全例にシノミン服用のための塩類尿はみとめてない。